十人十色の生前法名（ほうみょう）

釋（しゃく）の一字をいただいて歩む

生かされて
二度とない日を
今日もいく

発行日　2023年4月8日　初版

発　行　名古屋教区教化委員会　帰敬式再考委員会

問合せ　真宗大谷派 名古屋教務所
〒460-0016 名古屋市中区橘二丁目8-55
TEL. 052-331-2468

冊子デザイン　カザミドリデザイン

はじめに

生前法名をいただく方には
それぞれの思いがあります

「大切な人を亡くして」
「仏教を学びたくて」
「住職に勧められて」
「人生をもう一度見つめ直したくて」
「終活として」など

一人ひとりに思いがあり
生前に法名(※1)をいただきます

本来、法名は亡くなってからつけられる
名前ではないのです(※2)

混沌とした時代の中それぞれの思いを出発点として
「どう生きるのか」「なぜ生まれてきたのか」という

なかなか答えの出ない問いに
人生を通して向き合っていく

その時にいただく名前が「法名」なのです

そして、法名をいただくときに勤まる儀式を
「帰敬式(きけいしき)」(※3)といいます

※1 **法名**
仏弟子である証としてお釈迦様の一字を冠に、「釋〇〇」「釋尼〇〇」という法名をいただきます。

※2 生前に受式することが出来なかった方に対して、亡くなられた後に法名をいただく場合もあります。

※3 **帰敬式**
帰敬式とは「仏(仏陀=お釈迦様)・法(お釈迦様の教え)・僧(教えを聞く仲間)」の三宝に帰依し、本願念仏の教えを軸に仏弟子として生きていくことを誓う儀式です。

帰敬式は亡き人への想いである

亡くなったあなたと
いつまでも共にあることを
実感するために

帰敬式は仏弟子の名のりである

仏の教えを聞き
最後まで力強く
生きていく

帰敬式はアイデンティティの確立である

混沌とした時代の中
「私」であることを
忘れないために

帰敬式は自己の探求である

人間そのものを
根底から顕（あきら）かにする
教えがある

あなたが帰敬式を受けた理由を教えてください

受式者インタビュー 1

法名 釋尼華米
高木 米子 さん
（第25組 善敬寺門徒）

名古屋別院の護持団体・心光会※に所属し、様々な奉仕活動で来院されている高木さん。どのような経緯で法名をいただいたのか、たずねてみました。

私の行き先が決まった安心感

――帰敬式を受式されるまでの経緯を教えてください。

うちのおじいちゃんおばあちゃんは何をするでも仏さまに手を合わせる人で、私自身にとってもお寺は近所の遊び場でした。お寺さんやご先祖を大切にする風習の中で育ちましたし、夫が元気な時は私の実家の両親と、夫の両親もつれて別院にお参りに来ていました。

夫は共存ということを大切にする人で、いつも「女性も男性も一人ひとりが自立していくことが大切」だと言っていました。その言葉通り、私も自分の仕事をずっと続けることが出来ました。

その後、夫が亡くなり、そこからほぼ毎日と言ってもいいくらい、別院に来てお参りしていました。本堂の阿弥陀さんの前に座って、一人でじっとしていたいと思っていました。すると別院の職員の方が「今は悲しみの中におられるのですね」と優しく声をかけてくださったことをよく覚えています。

帰敬式は夫の三回忌の時、お手次のお寺さんが声をかけてくれて別院で受式しました。法名は亡くなったときにつけるものだと思っていたのでびっくりしましたが、お話を聞いているうちに「ぜひいただきたい」と思いました。イメージとしては「私の行くところが決まった」「夫と繋がることができる」という安心感でした。

「向こう岸」と「こっちの岸」

――法名をいただかれてからはいかがですか？

いつも「一緒にお参りしている」気持ちです。夫は「向こう岸」、私は「こっちの岸」だけど、「もともとは一緒の場所から来たんだよ、だから帰る場所も一緒なんだよ」と教えられている気がします。

私は早産児で生まれましたが、ここまでなんとか生きてこられました。生まれてすぐに死んでいたかもしれないと思うと、生まれるときと死ぬときが一番大事だと思っています。

今は心光会に入って、皆さんと一緒に別院の出版物『名古屋御坊』の発送作業や色々なお手伝いをしています。

――帰敬式をまだ受けていない方へお伝えしたいことはありますか？

多くの人が受式して欲しいと思います。心の安心感、自分を肯定してくれる世界があり、行き先が決まるということは、今を大事に生きていけることにつながると思いますから。

※心光会（しんこうかい）

名古屋別院を護持する10団体の総称である見真会の中の団体のひとつです。お盆、お彼岸の参拝者接待、報恩講でのお斎場の配膳、『名古屋御坊』の発送など、様々な活動をしています。現在は約50人ほどの会員がおり、随時、会員を募集しています。

受式者インタビュー 2

法名 釋広施
法名 釋尼相念
服部 博司 さん
服部 さち子 さん
（第20組 西祐寺門徒）

服部博司さんは、50代のときに現役で仕事をしながら、1993（平成5）年に組の推進員養成講座※に、さち子さんとご夫婦で参加し、京都の東本願寺で帰敬式を受式されました。

夫婦で同じ出発点に

――帰敬式を受式されたきっかけを教えてください。

博司さん　1988（昭和63）年、西祐寺で勉強会が始まりました。働いている人を対象とした夜の勉強会でしたので、会社の帰りにお寺に寄って、妻と二人で勉強しました。

さち子さん　勉強会に参加したきっかけは月参りで熱心に住職さんが声をかけてくれたからです。少し子育てにも余裕ができたので、夫を誘って参加しました。

博司さん　テキストは『宗祖親鸞聖人』で、講師は荒山修先生でした。その勉強会がとても楽しく、仲間が増えたことで、しばらく通い続けて行くうちに、1993（平成5）年に西祐寺が所属する地域全体（37カ寺）での推進員養成講座が始まりました。その時は大規模な勉強会があるので参加しようという程度で、法名も帰敬式も知りませんでした。そこに夫婦で参加し、京都のご本山で法名をいただきました。男女合わせて150人の参加者がいて、すごい賑わいでした。

――受式してみて（法名をいただいてみて）どうでしたか？

博司さん　やはり夫婦一緒に法名をいただき、出発点も同じということで、法話の話など共通の話題ができました。そこでお互いに感じたことを言い合えることは良いことだと思います。

さち子さん　私の実家は禅宗で、母は生まれが浄土真宗の家だったので、慣れるのに苦労したそうです。私が真宗のお宅に嫁いで法名をいただいたことをとても喜んでくれました。

仏さまと向き合う時間を大切に

――帰敬式の受式前と、後でイメージが変わったことなどありますか？

博司さん　お寺の勉強会に足を運ぶ回数も多くなり、いままで何となく聞いていたのが、もっと深く勉強したいという思いになりました。積極的に人と会い、仏縁を深めたいと思うようになったことです。

――まだ受式されていない方へのメッセージはありますか？

さち子さん　一度しかない大切な人生をお念仏に遇わせていただくと元気になった気がして、人生に勇気が出たように思われます。縁があればぜひ、できれば夫婦一緒に受式してください。

――受式のきっかけで「佛々相念」と書かれた理由（8ページ上段）はなんですか？

博司さん　妻の法名が釋尼相念で、「仏と仏と相念（あい）じたまえり」のお経の言葉が浮かびましたので、私も妻とともに仏さまに向き合う時間を大切にしていきたいと思い、並んで撮影してもらいました。

※推進員養成講座（すいしんいんようせいこうざ）

現在は「同朋の会推進講座」と名称が変わっていますが、名古屋教区においては、なじみのある「推進員養成講座」の呼び名のまま行われています。推進員養成講座とは、親鸞聖人の教えについて名古屋教区内のお寺で講義、座談などの講習を受け（前期教習）、その後、京都の本山・東本願寺で学ぶ（後期教習）講座です。本山の後期教習の日程で帰敬式を受けることもできます。

受式者インタビュー

3

法名 釋仁性
平松 仁さん
（第20組 西祐寺門徒）

帰敬式受式のきっかけをお聞きしている中で、「中に入って確かめたいことがあったので！」と答えられた平松さん。帰敬式受式後に得度も受式され、より深くお寺と関わり、真宗の教えを学んでおられる、その背景をたずねてみました。

一歩踏み込んで…

――帰敬式を受式されたきっかけを教えてください。

父が亡くなったことを機に、母が真宗の聞法に熱心になりました。生前、父から「わからないことがあったらお手次寺に聞いていきなさい」と言われたからだそうです。

それで、私自身も、浄土真宗とは何か、何を教えているのか、という疑問があって、何度もお寺に通いご法話を聴聞してみましたが、よくわかりませんでした。

いろいろと思い巡らす中で、お手次の住職から、名古屋別院での帰敬式を勧められました。以前から聞いてはいましたが、ようやくその時をいただいて受式しました。

何のために生まれてきたのか

――受式した前と後で何か変わったことはありますか。

一歩踏み込んで関わるようになり、いろいろな方に出会い、そこから自分を振り返ると、まだ自分の人生に、私自身何一つ手を付けていなかったことに気づかされました。

何のために生まれてきたのか。何もないまま終わるんだと思ったらどうしようと。何も聞いていないし、誰とも出遇っていない。自分自身すらわからない。だから聞いていこうと思っています。

――これから受式を考えている方へのメッセージはありますか。

受式したらどうなるのかなと、先のことばかり考えるかもしれませんが、今まで自分がその縁に遇ったこと、自分まで伝えられたということ、自分まで大事にされてきたもの。そのことを考えてみるのがいいと思いますね。そして、住職あるいは関係者の方々に、何でも相談、質問、お話をしてみてください。

帰敬式受式者の声

法名 釋和光
川上 和夫さん
（第2組 圓福寺門徒）

自分とは何だろう？

私は1941年生まれ、80歳と高齢を迎え、お寺さんに足を運ぶごとに「自分は何だろう」と、何か気持ちの中でお寺に興味を抱くようになりました。圓福寺さんに墓もありますし、門徒会よりの誘いもありましたので、有難く受けさせていただきました。帰敬式でお会いした方々も同年代の方で落ち着いて話が出来ました。帰敬式の剃刀の儀で、髪におかみそりを当てられた時は背筋がピリッとしました。

法名 釋善進
渡邉 進さん
（第21組 安養寺門徒）

妻の死、自らの病を経て

娘に勧められて受式した。毎日を漠然と送ってきたが、この３年の間に、妻が死去。私自身も大病を2回患った。 このようなことから毎日を大切に生きようと仏教に興味を持った。
帰敬式の当日は「仏弟子になる」と言われたが、私には浄土真宗の知識が全くないので、初歩的なことから始めようとDVDプレイヤーや浄土真宗の解説書を数冊購入して、少しでも知識を広めたいと勉強を始めている。

法名 釋尼洋華
西山 洋子さん
（第23組 順慶寺門徒）

何もわからない中で

母親の収骨のため、順慶寺のご住職からいただいた本山収骨の案内の中に帰敬式の文字がありました。初めて聞く言葉で、さっぱりわかりませんでしたので住職に説明してもらいました。受式したのは法名が授けられることで、いま、生がある時に「自らを知り得たかった」からです。
当日は法名が授けられたことに感激しました。少しずつ浄土真宗の教えを学びたいと思いました。他の参加者の方々の熱心なことに感激しました。

帰敬式を受式するには

帰敬式の受式には主に、

① 東本願寺（京都）での受式
② 名古屋別院での受式
③ 地域のお寺での受式

以上の三つがあります。
それぞれ違いやポイントがありますので、ご自分に合った受式を選ぶ際の参考にしてみてください。

Case 1 東本願寺（京都）での受式

日　程　基本的には毎日行っております。
10:00頃から受付　11:00開式
13:00頃から受付　14:00開式
※法要や行事の関係で帰敬式のない日や、時間の変更があります。

礼　金　10,000円（20歳以下は5,000円）

ポイント　帰敬式を受式できる日が多いため、お仕事など、予定を合わせづらい方にはおすすめです。また京都のご本山（真宗本廟）で受式できて、御影堂の荘厳な空気の中で法名をいただくことができます。

Case 2 名古屋別院での受式

日　程　毎年12月18日の 9:00開式
※名古屋別院の報恩講期間中

礼　金　20,000円（20歳以下は15,000円）

ポイント　年に一回ですが、数回の事前学習会があり、「浄土真宗の教え」や、「法名について」などを知っていただいてからの受式になります。学んでいただくことにより、深い実感のもとでの受式となります。

Case 3 地域のお寺での受式

日　程　ご住職にご相談ください。

礼　金　ご住職にお尋ねください。

ポイント　「東本願寺（京都）」、「名古屋別院」とは異なり、普段からお付き合いのあるご住職により、儀式を執行していただけます。

留意事項

①東本願寺での儀式執行者は門首、鍵役です。また当日受付も可能ですが、住職選定の法名ではなくなります。詳しくは、名古屋教務所までお問い合わせください。お手次のお寺から真宗本廟奉仕団、組や教区主催の推進員養成講座、個人的に真宗本廟にお参りしたときなど、どのきっかけでも受式は可能です。
②名古屋別院の帰敬式での儀式執行者は門首です。また事前に申し込みが必要です。

問い合わせ先　**名古屋教務所**　TEL：052-331-2468　FAX：052-321-5845
MAIL：nagoya@higashihonganji.or.jp

内容が変更になることがあります。
詳しくはこちらのQRコードを読み取り、お東ネットをご参照ください。

YouTubeで見れる講座もあります。

名古屋別院で行われる 講座・行事のご案内

〈 問い合わせ先 〉 名古屋別院 TEL:052-321-9201 FAX:052-321-3184

講座で学ぶ

聖典研修

『真宗聖典』に収められた浄土真宗の聖教を、ともに学んでいく講座です。テーマ・講師は年度ごとに変わります。

日程:年4～5回 18時～20時
会場:名古屋別院対面所
参加費:一回500円

信道講座

今日まで120年にもわたって相続されてきた「仏教講座」で、お聖教に学ぶ日曜開催の講座です。

日程:毎月第2日曜日(変更の場合あり)
10時～12時
会場:名古屋別院対面所
参加費:一回300円

真宗門徒講座

親鸞聖人や釈尊、七高僧とその教えについてなど、浄土真宗の基礎を学ぶ「入門講座」です。

日程:年10回
会場:名古屋別院対面所
参加費:一回300円

暁天講座

著名人や、文化人などを招き、広く一般に聴講を呼び掛けている早朝講座です。

日程:8月1日～5日
6時15分～
会場:名古屋別院本堂
参加費:無料

人生講座

様々な社会問題を学び、自らの人生に向き合っていく講座です。ネット配信も行っています。

日程:不定期開催
会場:名古屋別院対面所
(変更の場合あり)
参加費:一回300円

おつとめ(声明・勤行)

門徒声明

『正信偈』などのおつとめの稽古です。初めての方もまず「声」を出して慣れることから始めましょう。

日程:毎月2回
会場:名古屋別院本堂下広間
参加費:無料

- **朝のお勤め「晨朝(おあさじ)」**……毎日
- **夕方のお勤め「昏時」**……毎日
- **宗祖親鸞聖人御命日**……毎月27日、28日
- **法要「一如さん」**……毎月12日
- **報恩講**……12月12日～18日
- **お彼岸**……3月、9月
- **お盆**……8月

ふれあいの場

縁日

- 「**暮らしの朝市**」……毎月8日、18日、28日
- 「**一如さん**」……毎月12日

おそうじサロン

清掃奉仕をし、その後茶話会(サロン)でゆったり別院で半日お過ごしください。

日程:年3回ほど
会場:名古屋別院境内
参加費:無料

おてらいふ

一泊二日で「お寺体験」してみませんか。これまでお寺にあまりご縁のなかった方、お寺に泊まって「お寺体験」をしたい方などを対象にした講座です。

日程:年2回ほど
13時から翌13時
会場:名古屋別院境内
参加費:6,000円
(学生3,000円)

別院奉仕研修

境内の清掃をして、仏さまのお話を聞いて、皆で語り合う一日研修です。一日ゆったりとお寺に身をおいて、日ごろの「私」をともに見つめてみませんか?

日程:年5回ほど10時～
会場:名古屋別院境内
参加費:2,000円

老いと病のための心の相談室

相談員による電話や面談で人生や老いの悩みに寄り添う相談室です。
電話相談:TEL:052-331-9580
面接相談:事前に社会事業部までご予約ください。

日程:毎週月から金曜日 13時～16時 **会場:**東別院会館
参加費:無料

相談員募集

講習を受講し、相談員として活動してくださる方を募集しています。

その他

世話方(見真会)会員募集中

別院で活動していただく方を募集しています。

定例法話

教区内外の布教使が法話をします。

日程:毎月5日～28日まで(1月は10日～)11時10分～、13時～
会場:名古屋別院本堂、対面所 **参加費:**無料